

2026 年 5 月 28 日
ニッセイアセットマネジメント株式会社

日本経済新聞「十字路」に当社代表取締役社長 大関洋の寄稿文
「エヌビディア CEO、生成 AI「5 層のケーキ」論の波及効果
が掲載されました

5 月上旬に米ロサンゼルスで開かれた恒例の国際会議に参加した。世界の主要な運用会社のトップや機関投資家に加え、著名経営者も参加し、様々なテーマで議論が交わされた。金融・経済の潮流や投資家マインドの変化を定点観測するよい機会でもある。

各セッションで頻繁に耳にしたのが米エヌビディアのジェンスン・ファン最高経営責任者 (CEO) が唱える「5 層のケーキ (Five-Layer Cake)」論だ。人工知能 (AI) を単なるソフトウェアでなく「人類史上最大の統合インフラ」として理解すべきとの考えだ。

土台となる第一層はエネルギー、第二層は半導体チップと計算インフラ、第三層はクラウドやデータセンター、第四層は AI モデル、第五層はアプリケーションとなる。

AI アプリでプロンプト (指示) 入力すると、電気が流れ、画像処理半導体 (GPU) が動き、モデルが推論して即時に結果を生成する。すべての層が連動してはじめて、優れた AI が実現する。

「AI が仕事を奪う」との懸念にファン氏はこの理論で反論する。AI という大きなケーキを焼くために、ソフトウェア開発からデータセンター、エネルギーインフラの建設まで幅広い産業で高度な技能を持つ人材が必要となり、雇用創出につながるという。

米国経済を巡る議論では地政学リスク、インフレなどへの懸念はあるものの、楽観もしくは超強気な雰囲気にも包まれていた。それはこの「5 層のケーキ」説を裏付けるように、広範な分野で AI 関連投資が進んでいるためだ。

27 年のハイパースケーラー (大規模クラウド事業者) 4 社の総投資額は 1 兆ドルに上るともいわれる。巨人同士の生き残りをかけた戦いを踏まえると、「5 層のケーキ」に関わる企業の好調は内外を問わず、しばらく続きそうだ。

(ニッセイアセットマネジメント 社長 大関 洋)

(2026/5/28 日本経済新聞 夕刊)

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUB2620I0W6A520C200000/>